

男女共同参画社会とともに考える

MOVE

う・ご・く

vol.
46

特集

「すべての人があ自分らしく、多様な性について知ろう」
「LGBTのつぶやき」
「気になる本」ほか

MOVEとは、「うごく」という意味のほか、男女がともにより良い社会づくりに向け「行動する」、そして「感動する」という意味をこめて命名しています。



LGBTの象徴とされる虹色の旗「レインボーフラッグ」

あなたは「男性」ですか、「女性」ですか、それとも「どちらともいえない性」ですか。

様々な調査から、同性が恋愛対象となる人や自認する性とからだの性が異なる人など、いわゆる「LGBT」と言われる「セクシュアルマイノリティ」は日本では約5%～8%、約13～20人に1人、40人クラスであれば2～3人いると考えられています。しかし、周りの無理解や偏見に苦しみ、ひとりで悩む人も少なくありません。

どのようなセクシュアリティ(性のあり方)でも誰もが「自分らしく」生きることのできる社会を目指して、一緒に考えてみませんか。



練馬区

男女共同参画情報紙通刊75号『MOVE』vol.46 平成31年(2019年)4月1日(年2回発行)

●発行 練馬区総務部人権・男女共同参画課 ●練馬区豊玉北6-12-1 (3993-1111(代表)、5984-4518(直通))

私たちは幼いころから、自分の中から自然に湧き出てくる興味関心と、周囲から期待される「自分」の間で、折り合いをつけながら大人になっていきます。誰もが「みんなと同じ」に当てはまらない部分を持っており、それこそが「私らしさ」です。

「LGBT」をはじめとする「性的少数者」と「多数派」の間もグラデーションです。

今回の特集では、様々な葛藤を経験したうえで、自分らしく生きることができるようになり、今とても輝いている渡邊あきさんのお話と周囲から見えにくい当事者の困りごとをマンガで紹介していきます。

渡邊あきさんにお話を伺いました。

【本当の心を隠してしまった 幼少期～高校生】

私は、体は女性で生まれましたが、ものごころついた頃から性自認(心の性)は「男性」でした。しかし、体の性が女性というだけで、七五三では顔を白く塗られ、着たくもない着物を着せられ、小学校では赤いランドセルを背負って学校に通い、中学・高校ではスカートを履いて登校していました。

もし、自分のことを「男性」だと思っている男の子に、赤いランドセルを背負って学校に通うように強要したら、すごく抵抗する姿が容易に想像できると思いますが、私にとってもそれと同じようにとても嫌な経験でした。

体と心の性が不一致でありながら、自らの選択の余地がないままに割り当てられる服装や、いたるところで行われる男女分けには、子どもながらに心底うんざりしていましたが、否定されることや、人と違うことでおかしな子と思われてしまうことの方が怖くて、本当のことはずっと秘密にしておこうと心に決め込みました。そして、周りからのニーズや賛同を得ること、非難の対象から逃れることを優先して生きてきた結果、高校を卒業する頃には、自分自身が一体何者なのか、将来どうやって生きていくべきいい



OUT IN JAPAN
PHOTOGRAPHED BY LESLIE KEATON

渡邊 あき

1985年静岡県生まれ。高校卒業後、地元の市役所に就職するも、自身の抱える性別違和の悩みから、生き方を模索して上京。大学事務職員を経て、現在はNPO職員として働いている。

のかが、わからなくなっていました。

【人生の転機】

高校卒業後、流れのままに地元の市役所に就職して9年が経とうとしていました。それまでの間、一時も性別違和の悩みから解放されたことはありませんでした。当時、ジェンダーの悩みを相談できる相手も、生き方のお手本となり得る人もいませんでした。それどころか、性別違和の悩みを抱えているのは、世界で自分1人だ

とさえ思っていました。それほどまでに情報が少なかったのです。

私が恋愛対象として惹かれる相手は女性でしたが、それもいけないことだと思っていたので、好きでもない男性と付き合ってみたり、一生懸命心を変えようと女性らしく振舞ってみたり、髪を伸ばしたりと、色々と努力したことありました。しかし、どんなに頑張っても、頭で考えるように心は変わってくれなかつたのです。

ある日、テレビで得た情報から、性別のことでの悩んでいるのは自分だけではないということを知り、「たった一度の人生、誰かの期待や顔色をうかがいながら終わらせては絶対にいけない!」という強い信念を持つようになりました。しかし、家族や友人、職場の人に伝える勇気はなく、もしカミングアウトをして嫌われてしまったら、居場所がなくなり、生きていけなくなると感じていました。そのため、仕事を辞めて、地元を離れる決意をしました。それからは、「心を押し殺して自分を偽ることなく、どんなことがあっても正直に生きよう」と誓ったのです。

【性はグラデーション 人の数だけ存在する】

退職後、トランク1つで上京し、性的少数の方にも沢山出会いました。見た目では誰が当事者かということがわからないので、「これまでもきっと近くにいたけれど、自分と同じように周りにはただ言えていなかった人がいたんだろうな」と感じました。実際に会って接してみると“LGBTの人”という以前に、みんな1人の人間でした。そんなこと、考えてみれば当たり前なんですけど(笑)。

偽り続けてしまった自分の人生を取り戻すべく、コーチング(未来志向的型の解決療法)を学び、400人以上の方とその人らしい生き方についての対話を重ねました。すると、人は誰もが体の性に関係なく、心の要素として「男性性」と「女性性」を少なからず持っているということがわかつきました。



その人らしい自然体な在り方は、それぞれがとてもユニークで、国籍、年齢、好みや価値観、信念など、様々な要素が複雑に重なり合った唯一無二のアイデンティティを形成していて、性自認や性的指向は、そのうちの一部でしかありませんでした。

【その人らしさを尊重しあい 違いを「誇り」に】

これまでの社会では、体の性を基準とした「男」と「女」の2つの性や異性愛を前提として様々な話が進んできました。それ以外は、あまり想定されていなかったので、少数派の人は存在しないものとされ、人と違うことで悩んだり、困っている姿すらなかなか見えにくい状態でした。

最近は、LGBTに関する話題が増えていますが、まだまだ多様な性に関する適切な情報は浸透していないと感じています。なぜなら、実際に、性自認や性的指向の違いなどが原因で、学校でいじめが起きたり、自殺に繋がってしまうケースが後を絶たないからです。

前提を変えたコミュニケーションや、あなたのちょっとした一言、ちょっとしたアイディアでホッとしたたり、救われる人が実は沢山いることをぜひ知りたいです。人と違うことが「恐怖」でなく「誇り」になるために必要なことは、より多くの人がありのままの自分に対して自尊心を持つことだと感じています。性的少数者の人だけでなく、すべての人が安心して自分自身でいられるためにはどうしたらよいのか、そんな温かい雰囲気をみなさんと共に考えていただけたら嬉しいです。

特集 すべての人が自分らしく～多様な性について知ろう～

ここでは、当事者の方が実際に困っている場面を渡邊さんに描いていただきました。

とある教室で…

1



ホモネタにはのらないようにしよう

誰かを誹謗中傷するのってかっこわるい

性別でなくひとりの人間としてみよう

好きなものを好きと言える、なりたい自分になれる環境をつくろう

2



3



テレビを観ていると…

伝統的とされてきた
思い込み
こうあるべきという
決めつけ

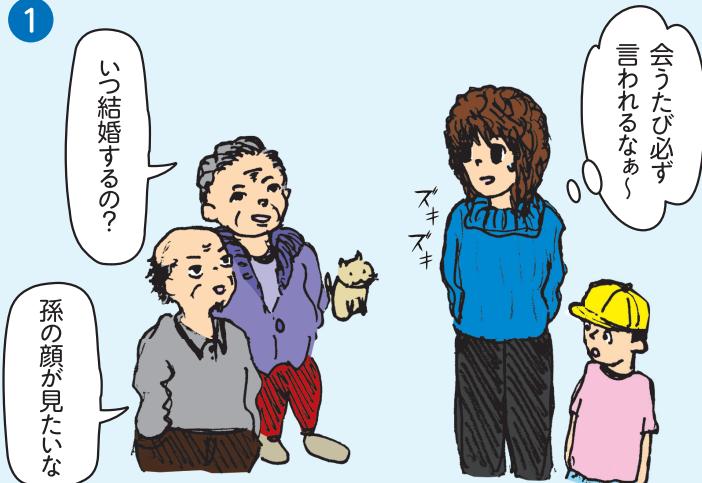


ホモ・レズ・オカマ・オナベは差別用語

かげで傷ついている人がいることを想像しよう

親戚と顔を合わせるたびに…

1



正しいか間違っているかではなく、違いを認め合うと幸せな人が増える

昔からの価値観で決め付けない

「こうあるべき」という思い込みを手放そう

その人にとっての幸せの選択を尊重しよう

2



3



知識の泉

「LGBT」って何でしょう？

LGBTは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダーをはじめとするセクシュアルマイノリティを表す総称です。

L(レズビアン):女性同性愛者

G(ゲイ):男性同性愛者

B(バイセクシュアル):両性愛者

T(トランスジェンダー):身体の性と異なる性別で生きる人、あるいは生きたいと望む人

このほかにも、相手の性別に関わらず、すべての人が恋愛の対象となり得る「パンセクシュアル」や、恋愛感情を抱かない「アセクシュアル」、自分がどの性に属するかわからなかったり、決められない「クエスチヨニング」など、性のあり方や呼び名は様々です。

T(トランスジェンダー)にも様々な呼び名があります

生まれたときの体の性が女性で、心の性が男性の人をFTM(トランスジェンダー男性)といいます。

生まれたときの体の性が男性で、心の性が女性の人をMTF(トランスジェンダー女性)といいます。

体の性に関わらず、心の性が男性と女性どちらもある、どちらでもない、真ん中であるなどの人をXジェンダーといいます。（「F」はFemale女性、「M」はmale男性）

マジョリティ(多数派)と呼ばれる人にも呼び名があります

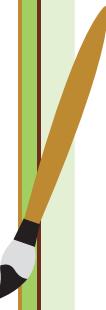
心の性が女性で好きになる性が男性の人、また、心の性が男性で好きになる性が女性の人をヘテロセクシュアルといいます。

生まれたときの体の性と心の性が一致している人をシスジェンダーといいます。

参考：東京都「みんなの人権」



LGBTのつぶやき



LGBTについての思いを川柳風につぶやいてみました。

ランドセル 彩(いろどり)ふえて 笑顔咲く

昔は「女の子は赤、男の子は黒」だけが「ふつう」だったランセル、最近はデザインも色も豊富になっています。

「選択肢が増える」ことは、誰にとっても嬉しいことなのでないでしょうか。性のあり方に関わらず、誰もが、好きな色を好きと/or/えて、好きなものを自由に選べる社会になりますように。

中島潤 二十代 *FTX

ささやかな 工夫がつくる 「居場所」感

例えば、いらない性別欄をなくす、図書館にLGBT関連の書籍をおく、「彼女いるの? いないんだつたら紹介してあげようか?」を「付き合ってる人いたりするの? あ、無理して答えなくていいんだけど」にしてみるなど…。暮らしの中ですぐにできる「小さな工夫」はたくさんあります。

一人ずつの工夫が重なって、自分の「居場所」がある、と安心できる人が増えたらしいな、と思います。

中島潤 二十代 *FTX

同性愛 理想は高し 夢は儂し

同性愛者にとっては、理想の恋愛対象の相手と出会える機会が少なく、夢で終わってしまうことも多いという儂い現実も。

もっと同性愛者も気軽に恋愛ができる社会になつて欲しいなと思います。

大河原日出男 六十代 *MTX

自分らしさ 時代の流れに 光あり

昔はLGBTというだけで差別的に見られることがあります。石をぶつけられたこともあります。それでも自分の信念を曲げずにやりたい事をやりたいように続け、今のような時代が自然と訪れました。自分の信念を曲げずに貫けば、どんな形であつてもいつか周りにも世間にも認められる日が来ると信じています。

大河原日出男 六十代 *MTX

女子男子 決めないでいいよ あなたはあなた

学生時代、理系か文系かどちらかに決めなくてはいけなくて、悩んだ(悩んでいた)人もいるのではないでしょか。自分自身を理解することはとても難しいものですし、実際、文系と理系とに明確に分類されない学問領域はたくさんあるので、完全にふたつに分けようとすること自体に無理があります。それと同じように、自分が「男」か「女」か決める必要はないどみんなが理解している社会にしていきたいのです。

編集委員 *F(システムエンジニア)

*P5 「知識の泉」参照

男女共同参画ニュース

～男女共同参画に関する情報をお届け！～

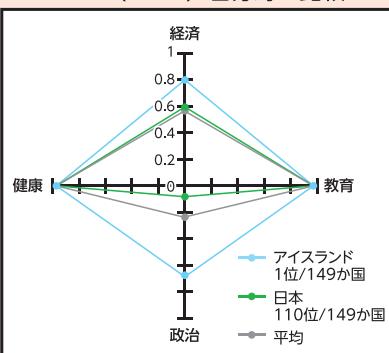
世界で110位!? 男女平等後進国の日本

世界各国の男女格差を示す指標「ジェンダー・ギャップ指数」。世界経済フォーラム（年次総会は通称ダボス会議）が毎年公表していて、2018年版が12月に発表されました。調査対象149カ国中、何と日本は110位。

過去最低を更新した2017年度の114位よりは若干順位を上げたものの、主要7か国（G7）では圧倒的に最下位なのです。

ジェンダー・ギャップ指数は、経済活動や政治への参画度、教育水準、出生率や健康寿命などから算出されますが、日本は、経済（117位）と政治（125位）の分野のスコアが著しく低く、「依然として相対的に、男女平等が進んでいない経済圏の1つ」と厳しい評価を受けています。

GGI（2018）各分野の比較



過去3年間の比較

分野	2018年		2017年		2016年	
	スコア	順位	スコア	順位	スコア	順位
総合	0.662	110位	0.657	114位	0.660	111位
政治	0.081	125位	0.078	123位	0.103	103位
経済	0.595	117位	0.580	114位	0.569	118位
教育	0.994	65位	0.991	74位	0.990	76位
健康	0.979	41位	0.980	1位	0.979	40位
	/149ヶ国		/144ヶ国		/144ヶ国	

出典：世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書」

「気になる本」

弟の夫(おとうとのおっと)(全4巻)

田亀源五郎 双葉社2015年～2017年 コミック

妻と離婚して小学生の娘を育てるシングルファザーの主人公のもとにカナダに移住していた亡くなった双子の弟の同性婚の相手である男性が訪ねてくる。



主人公は「弟の夫」との短い生活の中で自分が知らず知らずのうちに身につけていた偏見に気づき、自分自身と向き合いながら「弟の夫」の存在や同性愛をカミングアウトされてからどこか避けてきた双子の弟のことも受け入れていく。

異性愛が「普通」なのか両親がいる家庭が「普通」なのか。何が「普通」なのかを決める権利は誰にもない。いろいろな愛の形、家族の形があつていいという普遍的なメッセージが込められている作品です。

平成31年度区民企画講座が決定!

ねりま区報平成30年11月1日号で公募した「平成31年度区民企画講座」が下記の8講座に決定しました。区報「情報あらかると」欄やえーるHPに順次掲載されるほか、図書館などの区立施設にチラシを配架しますので、ご注目ください！

- ◎スマホの中に残されたデータ遺品・対策講座
- ◎もっと親子で話そう！誰がやってる？家の中のいろんなしごとの話
- ◎映像で辿るオードリー・ヘップバーン物語
- ◎自分らしく生きるために～多様な性を切り口に考える～
- ◎お父さんも一緒に！学ぼう子どものココロ
- ◎Let's ワクワク！パパと親子体操
- ◎あなたの妊娠率知っていますか？～後悔しない人生設計～
- ◎ふしぎ！動くカップ コロコロカップ

※題名は仮題のため、募集時には変更される場合があります



心のバランスを整える
アートセラピー（平成30年度）

各種施設の利用
方法や、講座・イ
ベントの詳細は、
ホームページなど
でお知らせしてい
ます。



<http://www.nerima-yell.com/>

相談室

03-3996-9050

- 総合相談（予約不要）
毎日・午前9時～午後7時／祝休日は午後5時まで
第3土曜日は性的マイノリティ相談（午後5時まで）ができます。
- 心の相談（要予約）
月～土曜日・午前10時～午後7時／祝休日は午後5時まで
- 法律相談（要予約）
祝休日を除く毎週土曜日 午後1時～午後4時
- 配偶者等の暴力（DV）に対する専門相談（要予約）
月曜日 午前9時～午後5時
水曜日・金曜日（第一を除く） 午前10時～午後7時
(祝休日は午後5時まで)
(*第一金曜日は練馬区区民相談所で実施 午前9時～午後5時)

図書・資料室

- 男女共同参画、女性論、
男性論、生き方、心の問題、
家族の問題、再就職に役立つ本など、多数そろえて
お待ちしています。
ぜひ、ご活用ください。
- 練馬区内に在住・在勤・
在学の方が利用できます。
 - 6冊まで4週間借りられます。

アクセス

〒177-0041 練馬区石神井町8-1-10
電話：03-3996-9005/FAX：03-3996-9010



ねりまフォーラム2018 ～男女共同参画の集い～ を開催しました

男女共同参画社会の実現を考えていただく場として、毎年区民と協働し、男女共同参画の集い・ねりまフォーラムを開催しています。昨年は、「CM炎上・セクハラ・パワハラはなぜ起こるのか？～同質性のリスクから考える男女共同参画～」と題して、平成30年10月27日（土）に開催し、107名の方々にご参加いただきました。

オープニングは、練馬区を拠点に男女共同参画の視点でさまざまな事柄を取り上げる演劇活動グループ「BPプロジェクト」による寸劇が行われました。

メインイベントは、平成20年中央大学教授山田昌弘氏と『「婚活」時代』を出版し、婚活ブームの火付け役となった白河桃子氏（作家、相模女子大学客員教授）による講演を行いました。

今年も公募区民による実行委員とともに「ねりまフォーラム」を開催します。詳しくは、ねりま区報やホームページでお知らせしますので、是非ご参加ください。



編集後記

本紙は、練馬区男女共同参画推進懇談会委員(K.F委員、K.M委員、T.M委員、H.Y委員、S.W委員)と協力し、企画・編集しています。取材にご協力いただいた方々に感謝申し上げます(事務局)。

練馬区総務部人権・男女共同参画課

〒176-8501 練馬区豊玉北6-12-11
電話 03-5984-4518(直通) FAX 03-3993-6512
Eメール jinkendanjo@city.nerima.tokyo.jp